

新十津川町立新十津川中学校

教員数：18名 全校生徒数：153名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : iPad
OS : iPadOS
学習eポータル : 実証用学習eポータル
アプリ : eライブラリ、ロイロノート

■ 取組の方法

1 端末の持ち帰りによる授業と家庭学習の接続

- 平日、長期休業中の持ち帰りによる家庭学習での有効活用
 - ・ 平日、長期休業中に授業で見いだした学習課題に取り組ませることで、授業と家庭学習の接続を図る。
- 主体的に家庭学習に取り組む生徒の育成に向けた授業改善
 - ・ ICTを活用した複線型授業の導入など、授業展開の工夫により、学習意欲を向上させることで、自ら家庭学習に取り組む態度を養う。

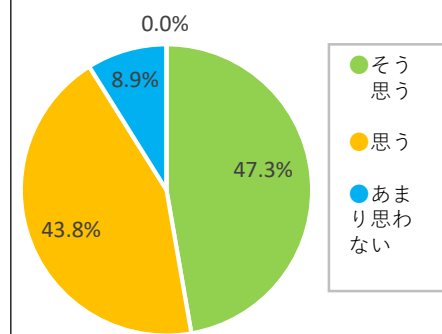
2 「ロイロノート」を活用した課題の提示及び回収

- 効果的な課題の提示・回収に向けた学年、学級、教科ごとのグループの設定

3 小学校との連携の強化

- 小学校の家庭学習の取組を確認し、系統性をもたせた家庭学習の取組の強化

「ICTを有効に活用しながら学習に取り組んでいる」

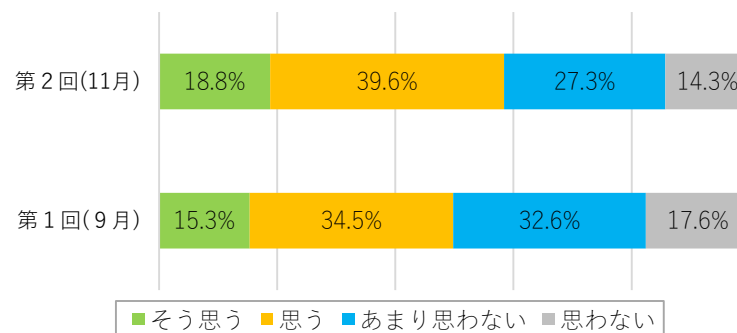


■ 生徒の変容

授業での積極的な端末の活用、日々の授業改善、毎日の持ち帰りにより、11月実施の調査では「継続的に家庭学習に取り組んでいる」と回答した生徒の割合が9月に比べ増加した。一方、ほとんど取り組めていない生徒も一定数いる現状となっている。

今後もさらに取組を充実させていくことで、主体的に家庭学習に取り組む生徒を増やしていく必要がある。また、継続的な家庭学習習慣の定着を図るとともに、家庭学習の内容の質の向上も目指していく。

「継続的に家庭学習に取り組んでいる」



北広島市立西の里中学校

教員数：18名 全校生徒数：181名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : まなびポケット
アプリ : Google Workspace for Education

■ 取組の方法

1 端末の持ち帰りによる家庭学習の促進

- 生徒が端末を必要に応じて持ち帰り、家庭で授業の復習を行い、その状況を教員が適宜、確認できるようにした。

2 長期休業中のICT活用の促進

- 生活のきまり、各教科等の課題、部活の予定等を「Classroom」で共有し、全校生徒で閲覧できるようにした。
- 「Classroom」のコメント欄を活用して、生徒からの質問に教員がアドバイスした。
- 長期休業中の学習と生活の記録を「Forms」で行わせた。
- 生徒一人一人の実態に応じて、課題の内容を修正したり追加したりした。

3 スマホ・ネット等の利用に関するルールの確認

- 生徒と保護者に「きたひろしまアンビシャス4ルール」を再周知した。
- 使用のルールについて家庭と連携を図り、生徒に指導した。
- 困ったとき、トラブルが起きたときの対処の仕方について生徒に指導した。



【きたひろしまアンビシャス4ルール】

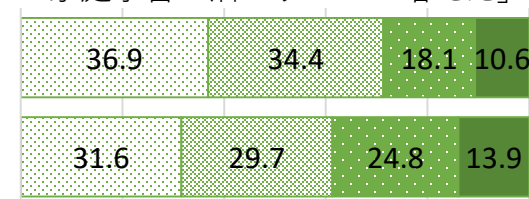
■ 生徒の変容

11月に実施した生活アンケートにおいて、「端末を持ち帰り、家庭学習に活かすことが増えた」の項目で、肯定的に回答した生徒の割合が7月から10%増加した。

授業での活用に加え、夏休みの課題の提出にも端末を活用したことにより、活用の頻度が増加した。

「端末を持ち帰り、
家庭学習に活かすことが増えた」

第2回(11月)



第1回(7月)

0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ あてはまる ■ だいたいあてはまる
■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない

千歳市立千歳中学校

教員数：33名 全校生徒数：540名 実施学年：全学年

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : まなびポケット
アプリ : ミライシード

端末持ち帰りモデル

■ 取組の方法

- ・ 日常的な端末の持ち帰りに向けた校内体制を整備した。
- ・ 生徒は、各教科等の課題やデジタルドリルを活用した家庭学習に取り組むとともに、生徒会活動や委員会活動における資料作成等に端末を活用した。
- ・ 校内のICTプロジェクトチームが家庭における端末の活用に係る約束を作成し、全家庭に配付した。
- ・ 文化祭の取組では、家庭でも合唱曲の練習ができるよう、クラウドに合唱を録音したデータや楽譜を共有した。
- ・ 冬季休業中は、デジタルドリルを活用した学び直しを推奨するとともに、教員が学習履歴を確認し、生徒の活用状況を把握した。また、主幹教諭が主体となって、端末を活用した健康観察・教育相談アンケートを作成し、実施した。
- ・ 主幹教諭と教育相談コーディネーターが中心となり、不登校生徒を含む全ての生徒を対象としたリモートによる授業配信ができるよう環境を整備した。

今日の体調はどうですか*

1 2

悪い ○ ○

今日の心の天気は*

☐ 晴れ

☐ 曇り

☐ 雨

☐ 雪

先生等に何か相談したいことはありますか*

☐ ある

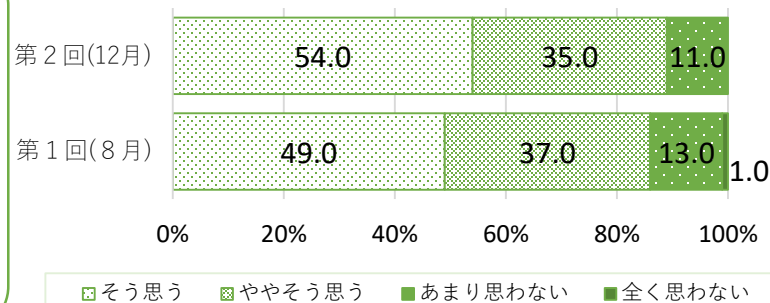
【健康観察・教育相談アンケート】

■ 生徒の変容

12月に全校生徒を対象に実施したアンケートにおいて、「端末の持ち帰りは、学習習慣の定着や学習内容の定着に役立つと思う」の項目で、肯定的に回答した生徒の割合は、8月の86%から89%となり、3%増加した。

授業におけるICT活用場面において、生徒が自分の考えを入力する様子が、昨年度と比較し、多く見られるようになるなど、家庭での端末活用が授業改善につながった。

「端末の持ち帰りは、学習習慣の定着や学習内容の定着に役立つと思う」



苫小牧市立啓北中学校

教員数：27名 全校生徒数：379名 実施学年：全学年

デバイス : WindowsPC
OS : WindowsOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : Teams、eライブラリ

端末持ち帰りモデル

■ 取組の方法

1 端末の持ち帰りによる、学校の授業と家庭学習の連動の推進

- ・端末の管理体制を確立した上で、学校全体で、平時からの端末の持ち帰りを実施した。
- ・各教科等で、授業と家庭学習の連動を意識した課題を提示した。

2 「Teams」を活用した教科の課題の提示

- ・音楽科では、夏期休業期間に合唱のパート別音源を配付したり、保健・体育科では、定期試験期間に重点的に課題を配付したりするなど、各教科等で「Teams」を活用して、家庭で端末を活用した学習を推進した。

3 AIドリル（eライブラリ）による個別学習の推進

- ・ICT担当教諭と学級担任が連携して、家庭における端末を活用した学習に係る計画を作成したり、「eライブラリ」の活用に関わる指導を行ったりした。

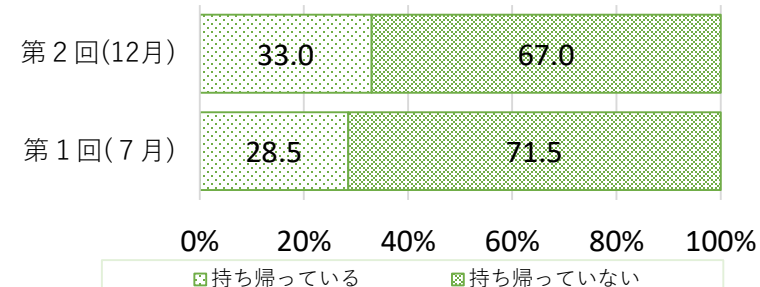
4 教員のICT活用能力の向上

- ・ICTの効果的な活用方法についての校内研修を実施した。今後はMEXCBTの活用に係る内容を充実させる。

■ 生徒の変容

授業と家庭学習の連動を意識し、各教科等で、ICTを活用した家庭学習を推進したことにより、「家庭学習のために週1回以上タブレットを持ち帰っている」と回答した生徒の割合が、7月から12月にかけて4.5%増加した。生徒には端末を活用して家庭学習を充実させようという意識が出てきている。

「家庭学習のために週1回以上
タブレットを持ち帰っている」



洞爺湖町立洞爺中学校

教員数：13名 全校生徒数：26名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス	: Chromebook
OS	: ChromeOS
学習eポータル	: まなびポケット
アプリ	: Google Workspace for education ミライシード

■ 取組の方法

- 令和5年度及び6年度の校内研究内容に「ICTの有効活用」を位置付け、全教職員でICTを効果的に活用した授業づくりに取り組むとともに、クラウドを活用して授業と連動した家庭学習の課題を各教科等で提示した。
- 外国語科では、家庭での英語の音読の様子を録音アプリ(Online Voice Recorder)を使い録音しクラウドに提出させるなど、各教科で育成を目指す資質・能力に応じた課題を工夫するとともに、各教科等の取組を学校全体で共有し、学力向上の取組の一層の充実を図った。
- 授業や家庭での自主的な学習を一層充実させるため、AIドリル(ミライシード)や、オンライン学習教材(eboard)等の活用を推進した。

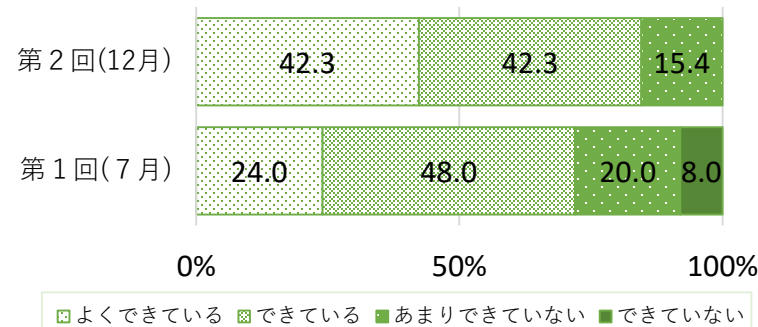


【朝学習の時間に、家庭学習の続きのAIドリルに取り組む生徒の様子】

■ 生徒の変容

- 7月と12月に、生徒を対象にアンケートを行い、「家でコンピュータなどのICT機器で勉強していますか」という質問に対し、肯定的に回答した生徒の割合が72.0%から84.6%に12.6%増加した。
- 日常的なICT活用が進んだことにより、生徒の情報活用能力が向上した。
- 授業におけるペーパーレス化が進み、生徒の日常の持ち物の軽減につながった。
- AIドリルの活用が進んだことにより、生徒から、難易度の高い問題を求める声が多く上がるなど、学習意欲の向上につながった。

「家でコンピュータなどのICT機器で勉強していますか」



七飯町立七飯中学校

教員数：24名 全校生徒数：293名 実施学年：全学年

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : Google Workspace for Education

端末持ち帰りモデル

■ 取組の方法

○ 日常的な端末の持ち帰りによる家庭学習の充実を図る取組

(1) AIドリルを活用した長期休業中の課題の提示

- ・各教科等において、長期休業前に既習内容とAIドリルの学習内容を照らし合わせ課題として提示した。
- ・長期休業中の生徒の学習状況を確認するとともに、長期休業明けに各教科等において、フィードバックを実施することで家庭学習の充実を図った。

(2) 日常的な端末の活用

- ・生徒が端末を学習道具として捉えられるよう、各授業において、共同編集や他者参照、発表資料の作成等を行う場面を日常的に位置付けた。

(3) 端末の効果的な活用に向けた教員研修の実施

- ・学校全体でAIドリルを効果的に活用するため、課題設定の仕方等について研修を実施した。



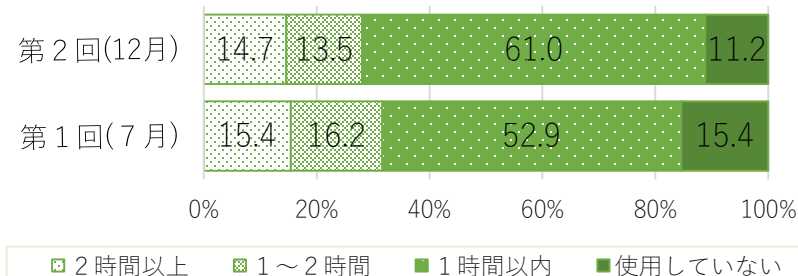
【端末の効果的な活用に向けた教員研修】

■ 生徒の変容

日常的な端末の持ち帰りによる家庭学習の充実を図ったことにより、「勉強のためにICT機器を使用する1日当たりの時間」のアンケート項目において、「使用していない」と回答する生徒の割合が7月の15.4%から12月の11.2%に減少した。

長期休業中のAIドリルでの課題に対して、教師が学習状況を確認するとともに、フィードバックを行ったことにより、生徒の学習への意欲が高まった。

「勉強のためにICT機器を使用する1日当たりの時間」



旭川市立永山南中学校

教員数：37名 全校生徒数：491名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス：iPad
OS：iPadOS
学習eポータル：L-Gate
アプリ：ミライシード

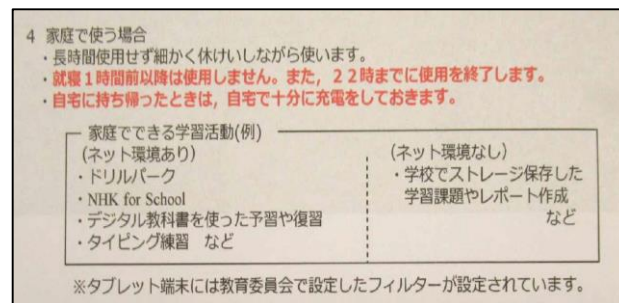
■ 取組の方法

○ 端末を活用する際のルールづくり

- ・6月末から持ち帰りを開始するために、生徒及び保護者に対し、事前に、持ち帰りに関するルールの確認や端末を利用した学習活動例の紹介を行った。
- ・生徒は端末を活用した家庭学習として各教科等の授業で取り組んでいる課題の解決やレポート作成、「ミライシード（ドリルパーク）」による復習、NHK for Schoolの視聴などに取り組んだ。

○ 日常的な端末の活用

- ・各教科等の授業において、端末を活用した発表資料の共有や共同編集の場面を位置付けた。
- ・不登校及び不登校傾向生徒の安全・安心な居場所づくりとして、不登校生徒と学級担任とのオンラインを活用した面談や不登校生徒のオンライン授業への参加体制の整備を行った。
- ・各学年の総合的な学習の時間において、端末を活用したレポート作成や発表会を実施した。
- ・生徒会活動や委員会活動において、資料の作成に端末を効果的に活用した。



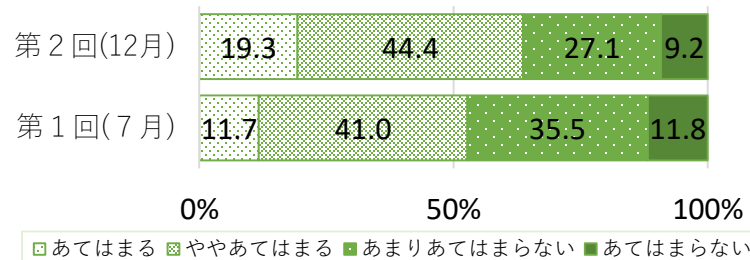
【端末持ち帰りのルールと学習活動例】

■ 生徒の変容

生徒アンケートにおいて、家で「毎日計画的に学習に取り組んでいる」と肯定的に回答した生徒の割合が7月の52.7%から12月の63.7%に11%増加するなど、端末の持ち帰りを開始し、学習習慣が身に付いた生徒が増えた。

第3学年においては、学習習慣確立の取組や端末の活用によって、平日に1時間以上、休日に2時間以上の家庭学習を行うようになるなど、生徒の学習に対する意欲が高まった。

「毎日計画的に学習に取り組んでいる」



旭川市立旭川中学校

教員数：20名 全校生徒数：189名 実施学年：全学年

デバイス : iPad
OS : iPadOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : ミライシード

端末持ち帰りモデル

■ 取組の方法

1 家庭学習での実践

(1) 教科等の課題（宿題）としての実践

- ① 各教科等ではスピーチ原稿作成、レポート作成、プレゼンテーション資料作成、授業の振り返りの記入等の場面において、課題（宿題）を提示した。また、必要に応じて教師がコメントを入力できるようにした。
- ② 行事や校外学習では、宿泊研修や修学旅行のしおりの記入等、総合的な学習の時間における職場体験学習や地域学習の動画編集・レポート作成等を課題（宿題）として提示した。
- ③ 教科外では、「ほっかいどうチャレンジテスト」の過去問題等を課題（宿題）として提示した。

(2) 生徒自ら考えた課題（自学）としての実践

- ① AIドリル「ミライシード」を活用した自主学習に生徒が自主的に取り組んだ。
- ② L-Gateの漢字検定や、「ほっかいどうチャレンジテスト」、興味・関心があるデジタルドリル等に生徒が自主的に取り組んだ。

2 学びの保障としての実践

- ・臨時休業中や長期欠席生徒への学習保障として、オンラインによる学習習慣の定着に向けた支援を行った。

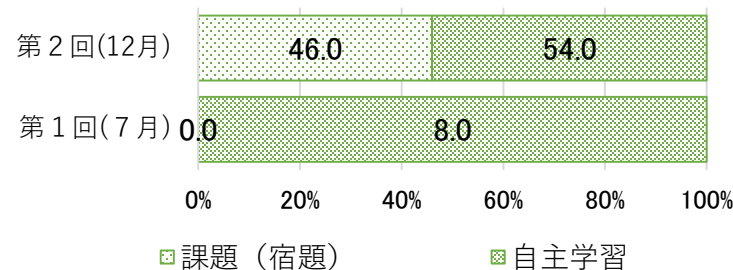


【課題を提出しコメントを入力できる画面】

■ 生徒の変容

生徒がコロナ禍の際、主体的に家庭学習に取り組めなかった反省を踏まえ、家庭学習の「質」を意識した実践に取り組んだことにより、家庭での学習内容が、レポートやスライドの作成などの課題（宿題）から、授業内容に関するAIドリルや調べ学習など、自分で学習内容を選択して行う自主学習へ変化し、自主学習を行う割合が7月の8.0%から12月の54.0%に増えるなど、家庭学習の質が向上した。

「家庭学習で課題（宿題）と自主学習のどちらを行うことが多いですか」



美瑛町立美瑛中学校

教員数：32名 全校生徒数：220名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス：Chromebook
OS：ChromeOS
学習eポータル：L-gate
アプリ：eライブラリ、
Google Workspace for Education

■ 取組の方法

① 端末の持ち帰りによる学習支援

生徒が授業の記録などを家庭で振り返ることができるよう、端末の持ち帰りを行った。

② 自己のスケジュール管理

生徒が見通しをもって学習や生活に臨むことができるよう、「Googleカレンダー」で自己のスケジュール管理ができるようにした。

③ デジタルドリル「eライブラリ」の活用

授業の復習や各種テストに向け、学校や家庭での隙間時間に「eライブラリ」を活用できるようにした。

④ 自己の生活リズムチェック

月ごとに1週間のチェック週間を設け、自己の家庭での生活状況を振り返り、生活習慣の改善につなげる取組を行った。

生活リズムチェックシート(2024年8月)						3年	4組	氏名	美瑛 太郎	平均	■①②の分は、0・30から近い時刻を選ぶ。 例) 13分⇒0 18分⇒30 ■③～⑥は、近い数値を選択。 0.25=15分間 0.5=30分間 0.75=45分間 自己評価(選択)：翌週月曜日に入力
期日	8/26	月	8/27	火	8/28	水	8/29	木	8/30	金	
予定	芸術鑑賞会		部活動中止日		学力テスト(全学年)		研修日 4時間授業 部活動中止日		全校集会		
①就寝時刻(前日の)	11時	0分	1時	0分	0時	0分	10時	30分	11時	30分	
②起床時刻	6時	30分	6時	30分	6時	30分	6時	30分	6時	30分	
③睡眠時間	7.5	5.5	6.5	8	7	6.9					少し睡眠不足
④学習時間(授業以外、塾、学習動画・検索含む)	2	0	1	0.25	3	1.25					少し学習不足
⑤運動時間(部活動含む)	1	0	2	2	1.5	1.3					運動十分
⑥ゲーム・動画(趣味)の視聴時間	2	5	1.5	3	1	2.5					視聴時間が長い
⑦朝ごはん(食べた=1 食べていない=0を選択)	1	1	0	1	1	0.8					朝食を時折抜いている

【生活リズムチェックシートの画面】

■ 生徒の変容

生徒アンケートにおいて、7月と11月を比較し、「家で計画を立てて学習している」と回答した生徒の割合が72.0%から74.0%に、「自分は学習する習慣が身に付いている」と回答した生徒の割合が70.0%から73.0%に増加した。

生徒アンケートの記述において、「スケジュール管理ができるようになった」「疑問点を端末で調べるようになった」「スライド資料で授業の復習ができた」「今までゲームや動画視聴していた時間で勉強するようになった」などの意見があった。

「家で計画を立てて学習している」

第2回(11月)	74.0	26.0
第1回(7月)	72.0	28.0
	☒ している	☒ していない

「自分は学習する習慣が身に付いている」

第2回(11月)	73.0	27.0
第1回(7月)	70.0	30.0
	☒ 身に付いている	☒ 身に付いていない

帯広市立帯広第八中学校

教員数： 32名 全校生徒数：438名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook
OS : Chrome OS
学習eポータル : 実証用学習eポータル
アプリ : Google Workspace for Education

■ 取組の方法

希望する生徒を対象に、「Meet」を活用したオンラインによる放課後の学習支援を行うことにより、学習意欲の向上と学習における困り感の改善を目指している。

1 ウェブ会議アプリの活用

生徒は自宅にいながら教師とコミュニケーションを図り、必要なサポートを受けることができる。

2 放課後の決まった時刻での接続

放課後の決まった時刻に接続できるようにすることで、規則正しい学習習慣を身に付ける一助となる。

3 学習意欲の向上と家庭との連携

「Meet」を活用した学習支援により、生徒の学習意欲の向上につながるとともに、保護者と学習支援の状況の共有を図ることができる。

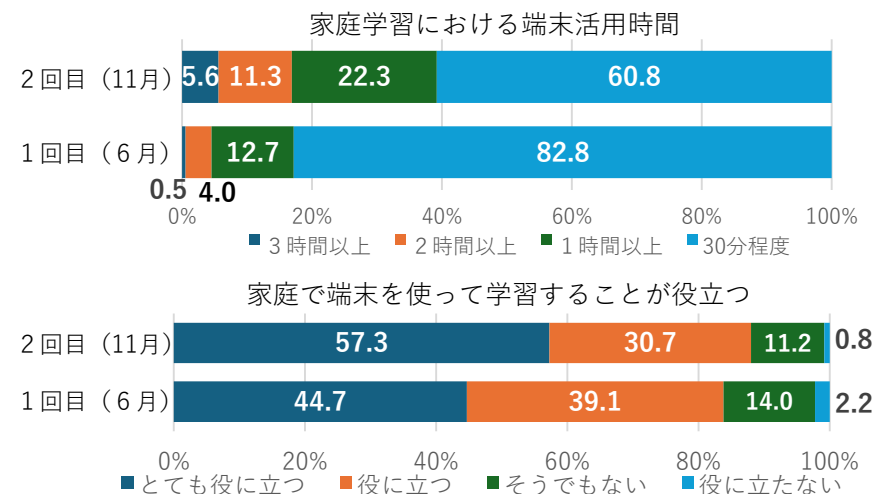


【オンラインによる放課後学習支援の様子】

■ 生徒の変容

「生徒の家庭学習における端末活用時間」について、1時間以上と回答する生徒の割合が6月から11月に増加するなど、放課後の学習支援の実施により、規則正しい学習習慣が身に付き、学習時間の確保につながった。

「家庭で端末を使って学習することが役立つ」と回答する生徒の割合が6月から11月に増加するなど、生徒自身が端末を活用した学習の効果を実感していることが学習習慣の定着につながった。



釧路市立美原中学校

教員数：20名 全校生徒数：150名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス：Chromebook
OS：ChromeOS
学習eポータル：L-Gate
アプリ：ロイロノート、
GoogleWorkspace for Education

■ 取組の方法

① 本事業のねらい

端末の持ち帰り及び端末を活用した取組の推進を通して、生徒一人一人の学習進度や興味・関心に応じて学ぶ環境を整え、自主・自律的な学習習慣の確立と基礎学力の定着や学習意欲の向上を図る

② 実施内容

希望者及び不登校傾向が見られる生徒を対象とした、端末を活用した放課後学習の実施、放課後自習室の開設

③ 実施方法

- ・退職教員等外部人材講師による放課後学習の実施
- ・「ロイロノート」を活用した受講者への課題提示、提出された課題へのフィードバック
- ・「Meet」を活用したオンライン学習の実施
- ・生徒の登校状況や学習進度に応じた職員間及び家庭との連携

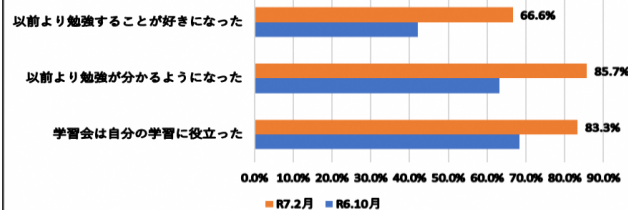
■ 生徒の変容

ICTを活用した個に応じた指導を充実させたことにより、「自主・自律的な学習」に係る全設問において、肯定的に回答した生徒の割合が10月と2月を比較し、約20%増加するなど、生徒の学習への意欲の高まりにつながった。

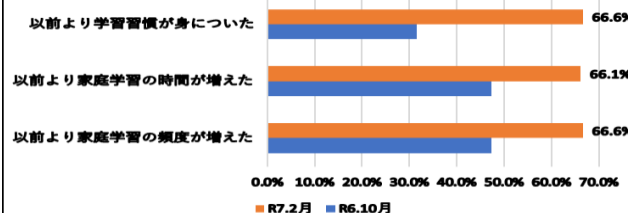
「家庭学習の充実、学習習慣の確立」に係る全設問において、肯定的に回答した生徒の割合が10月と2月を比較し、約20%増加するなど、学習習慣の改善につながった。

取組により、学びの深まりを実感する生徒の姿が見られたことから、今後も、学習意欲の高まりを学習習慣の確立や定着につなげるため、指導を継続する必要がある。

【自主・自律的に学習する生徒の姿】



【家庭学習の充実・学習習慣の確立】



釧路市立景雲中学校

教員数：41名 全校生徒数：511名 実施学年：全学年

端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook
OS : ChromeOS
学習eポータル : L-Gate
アプリ : タブドリLive!、
GoogleWorkspace for Education

■ 取組の方法

① 取組のねらい

端末の持ち帰り及び端末を活用した取組の推進を通して、日常の授業内容等と関連した家庭学習環境を整え、自主・自律的な学習習慣の確立を図る。

② 実施内容

- ・家庭学習用の問題を生徒の端末に提供し、生徒が家庭等に持ち帰った端末で家庭学習を行う取組
- ・オンラインによる双方向通信やオンデマンドで生徒の家庭学習を支援する取組

③ 実施方法

- ・長期休業中の課題を端末の学習アプリ「タブドリLive!」から出題し、休み明けに確認テストを実施
- ・長期休業中の学習会をオンラインで実施
- ・不登校生徒や校内教育支援センターで学習する生徒向けに、オンラインで授業を配信



【学習会配信の様子】



【配信された授業を視聴し学習する生徒の様子】

■ 生徒の変容

端末の持ち帰りや端末を活用した取組を推進したことにより、「家庭でICT機器を使って学習している」と肯定的な回答した第3学年の生徒の割合が7月の35.2%から10月の43.4%に増加するなど、ICTを用いて自主・自律的に学習する生徒の様子が見られた。

「タブドリLive!」の学習履歴を活用することにより、生徒が履歴を振り返りながら課題を選んで取り組む様子が見られるなど、主体的に判断して学ぼうとする生徒の姿につながった。

家庭でのICT機器（タブレット、スマホ、パソコンなど）を使って学習している（第3学年）

